

北町の地蔵堂

延命地蔵さんは、衆生の様々な苦しみに代わり、それを救われる。中でも幼い子供たちを守護し、短命の不幸から救済し、寿命を延ばし福利を付与される。

江戸時代、東海道の宿場として賑わった石薬師宿の入り口に、旅の安全のため建てられたのであろう。お地蔵さんを守り続けてきた北町の地蔵講は17軒があったようだが、現在は7軒となって掃除や供花の奉仕がなされている。



地蔵堂

お地蔵さんの左側に安置されているのは弘法大師の座像。近年まで、講のお爺さんが背負いながら遠く全国を廻り、安寧と繁栄を祈願されたそうだ。



弘法大師像 延命地蔵 西国三十三カ所御朱印

京都へ向かう途中、大谷から急な坂を下りると北谷川（現、浪瀬川）に差し掛かる。享和二年（1802年）御代官多羅尾氏の普請指揮により長さ十間（約18m）、幅二間（3.6m）の土橋が架けられた。橋を渡ると石薬師に入り、3軒ほどの民家と地蔵堂があったそうである。

国道1号線の敷設により地蔵堂が見下ろされるところとなり、交通事故が多発したため、有志の方々が新たに用地を一部買収し、現在の所に移築したと伝えられている。

お地蔵さんを供養すると十種の功德があるそうです。（合掌）



土橋が架けられていた辺り

地蔵盆踊り

1985年(昭和60年)

平成20年頃まで続いていた盆踊り
毎年8月24日はお地蔵さんの会式
である。



地元ご婦人方のお花見

平成10年頃

お元気な皆さんが集まり、
とても賑やかなお花見を楽し
まれた。



現在は大木になった 桜の下で

【地蔵盆】

地蔵菩薩の縁日は毎月24日であるが、
その中で特にお盆に近い8月24日の
ものが地蔵盆と言われている。寺院に
祀られている地蔵ではなく、「路傍^{ろぼう}や街角
のお地蔵さん」いわゆる「辻地蔵」が対象
である。

地蔵盆は近畿地方を中心とする地域で
盛んな行事であり、関東地方や東北地方
では地蔵信仰が浸透していないため、
地蔵盆も殆ど行われない。

地蔵菩薩は中世以降子供の守り神として信仰されるようになり、地蔵祭においては特に
子供が地蔵の前に詣り、その加護を祈る習わしになっている。
ところによっては仏僧による読経や法話も行われるが、それらの多くは子供たちに向けたも
のである。地蔵に詣った子供達にはおやつが配布されている。



北町の地蔵盆 地元の皆さんが参列法

雲寺住職 龍山僧侶